

令和4年3月立山町議会定例会代表・一般質問通告概要

(R4. 3. 2~16)

※ 質問順番

<代表質問>

1番 佐藤 康弘 議員 (自民党議員会)

<一般質問>

1番 坂井 立朗 議員

2番 平井 久秋 議員

3番 澤井 峰子 議員

4番 松倉 勝実 議員

5番 後藤 智文 議員

6番 村上 紀義 議員

7番 堀田 努 議員

8番 髪口 清隆 議員

9番 荻生 義明 議員

10番 広島 秀一 議員

11番 内山 昭 議員

<代表質問>

1番 佐藤 康弘 議員 (自民党議員会)

(1) 町政の課題と今後の展開

① 5期目の町政運営について

5期目の町政を担うに当たり、立山町の現状と課題についてどのように認識しているのか。また、今後どのような姿勢で町政運営を進めようとしているのか、問う。

② 新年度予算の編成方針について

新型コロナの収束が見通せない中、新年度予算の編成に当たって、基本的な方針と重視した取組みは何か。また、将来の町財政の見通しについて、併せて問う。

(2) 災害に強いまちづくり

① (仮称)防災センターの整備について

町民会館を解体し、(仮称)防災センターの整備を進めるとしているが、当センターの特徴及び現在の進捗状況と今後の整備スケジュールについて問う。

② 地域防災力の向上について

近年、全国で自然災害が多発しており、災害への事前の備えが町民の安全・安心につながる。

地域防災力の更なる向上に向け、どのような取組みを進めるのか、問う。

(3) 安心して出産・子育てができる環境整備

① 子育て環境の充実について

町の出生率は県内でも低い方にある。その原因と、今後、さらに町として安心して出産や子育てができる環境をどのように整えていくのか、問う。

② 児童館の整備について

防災センターに併設して児童館の整備も進めることとされており、子育て世帯が参加するワークショップも開催されている。新しい児童館の特徴と、こうした意見をどのように反映させていく考えか、問う。

(4) 町の新たな魅力発信と人口対策

① 町中心部の活性化について

町の中心部の活性化を目指し、五百石駅周辺で宿泊施設誘致の可能性調査などを計画されているが、この調査を含め、どのように町中心部の活性化を図っていく考えか、問う。

② 町の魅力発信について

昨年策定した新しい総合戦略では新たな資源を発掘し、立山町を訪れる人、知る人を増やす「町の魅力発掘・発信プロジェクト」を掲げ、関連事業を進めることとしているが、当プロジェクトに関し、新年度の取組みについて、問う。

(5) 環境にやさしいまちづくり

① 空き家対策の推進について

今年度、新しく「美しいまちづくり推進室」を設け、空き家対策が進められているが、今年度実施した「空き家実態調査」の結果等を踏まえ、空き家対策について今後どのように進めていくのか、問う。

② 地球温暖化防止対策の推進について

町では、昨年度、地球環境問題に対応するため、二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の宣言をされ、今年度、新たに「立山町ゼロカーボン計画」の策定が進められたが、当該計画の概要と今後の取組みについて、問う。

<一般質問>

1番 坂井 立郎 議員

(1) 五期目の町政運営について

① 発言等を含め、最近は自信に満ちた姿に伺える。町民、職員、議会に対してもう少し丁寧に接することが肝要と思うが。

② 「多選だからできたこと、多選だからできること。」とは何か。

(2) 「読解力」向上3か年プログラムについて

- ① 2月18日の町総合教育会議において、町長の熱い思いを聞いた。このプログラムに賭ける町長の意気込みを問う。
- ② 先生方とのコンセンサスを含め、現場とどのように向き合い、協力を図りながら進めていくつもりか。

(3) 空き家対策について

- ① 上市町が新年度計画をしている空き家バンクに無償譲渡の登録を進める補助制度をどのように評価するか。
- ② 他市町村に先駆けた先進事例となることが考えられる。町として取り組む考えは。

2番 平井 久秋 議員

(1) 富山地区広域圏ごみ処理有料化について

富山地区広域圏事務組合で、富山市が家庭ごみを早ければ2023年度後半にも有料化するとの方針だ。

- ① 今年度の広域圏への負担金が、過去5年間で最も多い。その中でもごみ処理事業が突出しているが、どのような算定によるものか。
- ② 富山市は、有料化で20%のごみ削減を計画しているといわれる。そうなった場合、広域圏を構成する他の市町村の負担割合が増大することはないのか。
- ③ 他県において、構成する最大手が値上げした場合、他の市町村も追随する方向性が見られる。もし有料化する場合、わが町の判断基準は、何をもってするのか。

(2) 小学校統合について

町立小学校適正配置検討審議会での答申で平成35年度末、すなわち2023年度末を目途に、学校統合の枠組みを決定したいとのことだった。

- ① 現在までの枠組み案に変更はあるのか。
- ② 地域的つながり、町全体のバランス、通学距離や時間、安全性については、具体的な指標はあるのか。
- ③ 将来的には、小規模特認校の設置も前提に入れた枠組みも考慮していかねばと思うが、どのように考えるのか。

(3) SDGsを意識した公共施設（建築物）について

（仮称）防災センターと児童館の建設が目前になってきた。1回目のワークショップでは、幅広い年齢層の方々から、たくさんの提案があったように見受けられた。

- ① 延期になった2回目のワークショップは、いつ頃になり、また、どの程度設計に反映されるのか。
- ② 町全体の公共施設の面積を削減していかなければならない中、
 - ア 建築資材の地産地消はあるのか。
 - イ 雨水活用（トイレ利用など）によるコスト削減は必須と思うが、いかがか。
 - ウ 提案理由説明で、省エネルギーと創エネルギーを組み合わせ、75%以上のエネルギー使用量を削減する、Nearl y ZEBとするとのことだが、これからはSDGs（持続可能な開発目標）を意識した建設に取り組む必要があると思うが、いかがか。

(4) 中心市街地の賑わい創出について

五百石駅前を中心とする中心市街地の賑わいを創出することだが、2019年のインターカレッジコンペティションで最優秀賞の案（暮らし体験施設やシェアハウス型の学生寮を、空き家の活用により実現）と融合させた調査や実証実験をすれば、賑わいづくりや空き家対策などの総合的で無駄のない開発につながると思うが、どのように思われるか。

3番 澤井 峰子 議員

(1) 5期目の施策について

- ① 2050年まで二酸化炭素排出量実質ゼロへの取組みとして省エネルギー化と創エネルギー化で75%以上の使用量削減とある。
 - ア 75%以上の使用量削減の具体的な計画を伺う。
 - イ この取組みは町民と意識共有し町全体で進めるべきものと思うが、町の対策を伺う。例えば、古紙回収やリサイクルなどの抱える課題の解消や日常生活で皆が取り組めるような活動など5年後10年後を見通しての考え方についても伺う。
- ② （仮称）防災センター・児童館建設に向けて「みんなでつくるワークショップ」やZoomでの勉強会を開催しているが、どのような意見、そこから見える課題や求められるニーズを踏まえた方向性を伺う。
- ③ 「読解力」向上3か年プログラムへの思いを改めて伺う。
- ④ 「商業・賑わい創出」について宿泊施設等の誘致への考え方について伺う。
- ⑤ 空き家対策について、空き家調査を行っていただいているが、個々に抱えている課題があり、なかなか解決しにくい問題もある。行政の対応に加え、弁護士等の相談窓口も必要ではないかと考える。町の対策を伺う。

(2) 教育環境の充実について

- ① コロナ禍により現小学6年生の中学校説明会が中止となった。唯一、児童・保護者が入学前に見学できる機会であるため、初めて中学進学を迎える方にとっては不安が大きいと考える。中1ギャップという課題もあることから、丁寧な対応が必要であると考え、町の対応をお伺いする。
- ② 読解力向上の3か年プロジェクトについて、先生方の視察研修などが計画されているが、現場の先生方の捉え方も様々あると思う。教育長の考えを伺う。

(3) 通学路の安全対策について

- ① 利田方面から自転車で通学する生徒の保護者から高速道路高架下に防犯カメラ設置の声がある。特に前沢地区から野口地区へ抜ける道の利用頻度が高く、防犯灯や防犯カメラ設置等の対策はできないか。
- ② 主要地方道立山・水橋線において、放課後、雄山中学校から武道館や体育館への歩道が狭くなっている。早期拡幅し安全対策をと思うが町の対策を伺う。

4番 松倉 勝実 議員

(1) 町議会選挙について種々お伺いしたい

- ① 少子高齢化の中、次代の担い手も育たない状況、寒い、危険、運動員も高齢、候補者も高齢化している。このまま放置することは忍びない。2か月繰り上げて秋の選挙にしたい。このことは、町民、運動員、候補者の切なる思いである。2か月早める方法を列挙し、各々の利点欠点を上げていただきたい。
- ② 前例が全国の地方自治体があれば、その事例とどのような期間と方法で実施したかを教えてほしい。
- ③ 税金投入した期日前投票の費用対効果を述べてほしい。
- ④ 若者の選挙離れを食い止める方法として小・中・高校生に対して、出前講座を8教育機関で実施したい。議員自らボランティア活動として講義に参加したい。議員の講義は、教育機関で認められるか答えていただきたい。

(2) 新川公民館及び立山町消防団新川分団詰所の改築並びに隣接化

新川公民館は、JAより寄付であり公民館対応の設計建築ではない。ゆえに早期に公民館仕様とすべきと思う。

- ① どこの自治体でも公民館の改築について、建設年度で順位を決めていると聞く。立山町は、どんな基準で決めているか答えてほしい。
- ② 費用対効果の観点で見たとき、新川公民館の順位は何番目に置かれているか。

- ③ 災害時の避難所としての役割を考慮したとき、災害（ここでは水害に特化した点で答えてほしい）が、一番起こりやすい地域はどこか答えてほしい。ちなみに、新川地区は、昭和 44 年豪雨災害で自衛隊のゴムボートで二階から救助されている。4 年前には、栃津川堤防が決壊寸前であった。修復にかなりの期間と費用が発生した。
- ④ 現在の耐震調査で新川公民館の順位は何番目か答えてほしい。
- ⑤ 以上 4 問を鑑みての改築順位はどこが一番と思われるか答えてほしい。

(3) 寺田駅周辺の再開発について

- ① 樺平黒部ダムルートの観光が本格化すると、寺田起点で時計回り、反時計回りのルートが完成する。私は、宿泊施設、駐車場の整備が必要と考える。寺田駅周辺の再開発の考えについて伺う。

5番 後藤 智文 議員

(1) 新年度予算に関連して

① 空き家空き地対策について

提案理由説明の中で、「空き家空き地を減らす」とし、「法令という壁があれば、厚い壁をこじ開けたい」と述べられた。その壁とは具体的にどんなことか。

② 町民会館解体について

防災センター・児童館建設が進められているが、町民会館にあった町民が集える場所がない。前にも指摘したが、町民が気軽に使用でき、集える場所が必要ではないか。

③ 18 歳までの医療費無料化について

子育て支援の充実に寄与するものとして歓迎するが、今まで「県や国の統一が望ましい」とされてきた答弁を覆されたのはどうしてか。

④ 「読解力」向上 3 年プログラムについて

「雄山中学校と小学校 2 校を選定して学力向上を図る」とされているが、なぜ小学校 2 校なのか。大事な取組みなら全小学校で取り組んだらどうか。

⑤ 農業後継者について

提案理由説明で「就農を希望する若い世代の移住者を受け入れるための法人を設立し、農業を学べる仕組みづくりに取り組む」とある。具体的にどんなイメージでどれだけの効果を見込んでいるのか。

(2) 放課後児童クラブ（学童保育）について

- ① 共働き家庭に安心を届けるために、立山小学校・釜ヶ淵小学校にも学童保育所を設置すべきではないか。
- ② 厚生労働省の運営指針は、学童保育の対象者を 6 年生までとしている。子供の安全・保護者

の安心のために対象範囲を拡大すべきではないか。

(3) 町民負担軽減について

① 固定資産税率について

ア 税率を上げた当初、1割は町民福祉のために使用するとなっていたが、現在は全て借金返済に充てられている。どのような理由で変更されたのか。

イ 学校等の建設に関わって引き上げられた固定資産税率は、元に戻すべきではないか。もし、今後も続けるならいったん税率を元に戻し、再度町民に問うべきではないか。

② 国民健康保険税について

ア 高いと言われる国民健康保険税。基金に3億円あり、昨年度の決算でも約1億円の黒字だった。一世帯当たり1万円の引下げをすべきではないか。

イ 子供にかかる均等割は子育て支援に逆行している。18歳まで免除すべきではないか。

(4) 高齢者に優しい町づくりについて

① 買い物や通院に難儀する高齢者が増えている。町営バスは、町民の利便性を高めるためにスーパーや医院を経由してほしいという要望が多い。運行を見直すことを検討すべきではないか。

② かみいち総合病院を利用している高齢者は多い。病院への町営バスを考えるべきではないか。

(5) 安心・安全について

① 災害時に避難所となる体育館に、エアコン設置を進める検討をすべきではないか。

② もう限界にきている町消防団の立山分団詰所、新川分団詰所の建て替えを進めるべきではないか。

(6) 前沢中央公園トイレについて

公園は、多くの人たちによって利用されている。保護者の間には、小さな子供が利用する場合、防犯上は大丈夫かという声がある。防犯カメラの設置や防犯灯の増設をすべきではないか。

6番 村上 紀義 議員

(1) 新型コロナウイルス感染症対策について

コロナ禍による感染拡大は未だ収束の先が見えない。感染拡大の指標となる「実行再生産数」で本県の数値が全国ワーストとなっている。介護、学校・保育施設でのクラスターもあり、本町も1か月以上連続して感染者を出している。

① オミクロン株は県下一円にまん延していると思う。本町の感染状況の推移を見ても予断を許さない。感染した際の行動マニュアル作成や自宅療養の際の支援物資等の情報発信が必要だ。対応策が急がれるが、難局を乗り切る町長の思いを伺う。

- ② マスクを外しての会話が深い家庭内の感染リスクは高いと聞く。家庭内における衛生、消毒の徹底、生活空間の分離等強い呼び掛けが必要だ。町としての対応を伺う。
- ③ 感染後の後遺症に苦しみ、治療法や特効薬もなく後遺症で泣かされている人もいと聞く。町としてこのような実例をどこまで把握されているのか。また、町としての支援策を伺う。
- ④ 小中学校や保育園等で感染した園児、児童生徒の多くは自宅療養と推察するが、それに伴って家族も自宅待機になる。現状での問題点と町としての対応を伺う。
- ⑤ 子どもを持つ保護者向けコロナ情報は
 - ア 町内の学校からの情報発信はそれぞれの学校に任されているのか。学校間で情報提供、対象範囲や内容は統一されているのか。教育委員会としての対応を伺う。
 - イ 感染リスクから、学校等に行かせたくない、行きたくないという声を聞く。このような不安に町はどのように寄り添うのか見解を伺う。
 - ウ 保護者が思っている以上に多くの子ども達はストレスを感じていると聞く。学校と家庭の連携と対応策について伺う。

(2) 農業の振興について

令和3年産米価は下落し、米の需要も大きく減となった。長期化するコロナ禍で需要減がさらに続き、主食用米以外の作付け転換が求められる厳しい現状だ。中山間地においても有害鳥獣被害に見舞われ、耕作意欲も失墜し美田も荒れ果てていく。追い打ちをかけるかのように生産資材価格の高騰、ウクライナ情勢で予断を許さない。農業経営への影響が目に見える。農水省は「緑の食料システム戦略」を掲げ、今後の農業の方向性を示そうとしている。

- ① 今の農業、農地を守るのは大規模経営だけでは無理と思う。現状では兼業農家、家族農業が必要であり、農地を守る意義から離農せずに農業を続けられるような施策も必要と思うが、町の見解を伺う。
- ② コロナ禍の影響は米農家も直撃した。再生産を補填する観点から米生産農家に対し、町として緊急的な助成金等で支援をする考えについて伺う。
- ③ 22年産主食用米の作付け数値が示され、飼料用米への転換見直しを示した。「水田リノベーション事業」、稲作農家の収入増加に寄与するものなのか町の考えを伺う。
- ④ 米価の下落が続けば農家の生産意欲はますます衰退し、遊休農地の増加が心配される。残念ながら、国は農地の選別を容認するような方向に舵を切っていると思うが、農地の維持について町としての思いを伺う。
- ⑤ 工業団地や宅地の造成が進行し、優良農地の転用が一部の地区で多く見受けられるが、近年の農地転用状況について町としての所見を伺う。

(3) 脱炭素化社会について

環境省は、「脱炭素に向けた地方自治体の取組みについて」を発信し、2050年までのカーボンニュートラル実現には「2030年までの10年間は重要」とし、2025年までの5年間を集中期間として

最新技術をフルに活用して足元からできることを直ちに実行することを求めている。

- ① 町は令和2年9月議会に「2050年までにできるだけ早い時期に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする立山町宣言」を行った。災害のない自然に恵まれたこの地に安心して暮らせるために、温暖化対策を積極的に推進する必要があるが、脱炭素に向けた今後の工程について伺う。
- ② カーボンニュートラルの実現には町民の理解や地元企業の協力が重要と聞くが、宣言後どのように町民に広げていくのか町の考えを伺う。

(4) 介護の現状と課題解決に向けた取組み

人生100年長寿社会となり、高齢者の割合は3分の1を超えている中、コロナ禍も重なり高齢者対策が複雑化している。

- ① 2025年までに団塊の世代が全て75歳以上になり、超高齢化社会を迎える。介護保険制度は、給付と負担のバランスを保ちながら持続可能性を確保していくことが重要だ。介護保険料の増加や介護人材の不足、介護難民等が心配される中、今後どのような問題や課題が生じて来ると想定しているのか。町長の思いを伺う。
- ② 介護保険の被保険者の負担額が今後増加することが想定されていると聞く。自宅で最後まで健康で過ごすことができるような、介護予防の施策に積極的に取り組んでいくことが必要と思うが、町の認識を伺う。
- ③ コロナ禍で人的交流が大幅に減少したことにより、目に見えないところで認知症の方が増加しているのではと心配されている。一人暮らし高齢者などは、近隣や地域の方々とのつながりが希薄になり、支援がなされたのか危惧される。介護認定申請件数や認定内容の動向と現状について伺う。

7番 堀田 努 議員

(1) 五百石町筋中心街の再開発について

町の中心部に再び活力をと町長は掲げています。現状はかつてと比べて商業施設が減り、空き家が予想以上に目立ちます。

- ① 昔から栄えていた町の中心部である五百石町筋では、空き家が目立つ半面、住民による町の活性化を図るため、子供たちも参加して獅子舞や盆踊りなど伝統ある行事を行っています。五百石町筋に住民が住み続けたいと思うために、このような行事に対する支援等、方策がありましたらお伺いします。
- ② 商業施設、特に飲食店の絶対数が近隣の自治体と比べて極めて少ないが、これを増やすことが町の活力をつける一番の近い方法と思われるが、どのようにお考えか。
- ③ たてポカード導入の効果が非常に大きく商店に貢献しているが、更なる商業の活性化を目指すに当たって、商工会とのタイアップなど、方策をお伺いします。

(2) 町道前沢中央線について

町道前沢中央線は、小・中・高生の通学路あるいは町民のウォーキングのルートとして、また自動車交通量をもても町民の大きな幹線になっています。

- ① 夜間は非常に暗く防犯、安全対策で明るい街灯の設置の考えがないかを伺います。
- ② 交通量が多いことから、雪が降るごとに圧雪になり、自動車の運転が困難になり危険です。さらに歩行者にも危険が及ぶ可能性があります。融雪装置の設置が急務と考えますが、これについて伺います。
- ③ 両側の歩道の除雪は行われていますが、降雪量に追い付いていません。通学路につき、更なるこまめな除雪が必要と考えますが、これについて伺います。

(3) 教育現場の状況について

教員の労務軽減について、部活動の顧問の問題等考慮され、各種の授業サポートが行われています。

- ① 教員の精神的な面のサポートについてお伺いします。昨今のニュースで学校や子供に関わることで、学校が謝罪している場面を目にすることがあります。しかし、中には「これって学校の問題？家庭の問題ではないのかな」と思うことがたびたびあります。教員も本音ではそう思ったとしても、そうは言えないのが現状と思います。それは相当な精神的な負担が生じます。学力向上をもちろん掲げますが、教員が肉体的、精神的に万全でなければ成し遂げられないと思います。教員の精神的な面でのサポートについてどのようにお考えか、お伺いします。
- ② 子育て世代ということで、行政は手厚く補助を親保護者に行っています。人口減少阻止の一環としてです。そこで思うことが見守り隊についてです。子供の安心安全を大人が見守ることは大切なことです。高齢の方や子供から手が離れた方が、毎日下校時に、雪の日も猛暑の日も町角で子供を見守っています。頭が下がる思いです。しかしながら当の親、保護者が立っているのを私の知る限り見たことがありません。子供は家庭・学校・地域で育てる。このトライアングルが最近崩れてきているように思われます。キーポイントは家庭、親、保護者ではないでしょうか。保護者同士で啓発啓蒙することが肝要であり、その機会はPTAではないでしょうか。このPTAの活動と教育委員会、行政が関わる会が地域ぐるみ教育研究会と思いますが、これを更にグレードアップ又はこれに準ずることを更に行えばと考えますが、どのように思われますでしょうか。お伺いします。

8番 髪口 清隆 議員

(1) 警察署の再編について

県内の小規模警察署の再編が公表され、県東部では入善・黒部・魚津の3署と滑川・上市の2署をそれぞれ一つに再編され、中規模警察署となる。

既存の庁舎は利用せずに新築するとのことだが、建設場所はまだ決まっていない。

- ① 立山町は立地的にも建設候補地になるのではないかと、利便性のいい立山インター付近での建設を希望するが、町として要望できないか、町の考えは。
- ② 富立大橋の4車線化によりアクセスしやすくなり、利便性が良くなる半面、治安の悪化などが心配される。町内で警察署の建設ができないのであれば、代替案として利田地区などで駐在所の設置を、町として強く提案できないか。

(2) パートナーシップ制度について

パートナーシップ制度とは、戸籍上は同性であるカップルに対して、自治体が婚姻と同等のパートナーシップであることを承認する制度のことです。

2月1日時点で全国では149の自治体が導入しているが、県内で制度のある市町村はまだない。

- ① これからの社会、パートナーシップ制度の導入をと思うが、町の見解は。

(3) 免許返納について

「高齢者等タクシー・バス運賃助成」として、運転免許証を返納又は持っていない75歳以上の方や18歳以上の障害者手帳を持っている方などへ、たてポの交通ポイントで助成している。

- ① 現在までの利用実績は。
- ② 新年度より、「免許返納高齢者等移動支援補助金」と名称を変更して行われるが、事業内容の変更はあるのか。
- ③ この助成があることを知らない方がまだまだいる、誰もがわかりやすい継続した周知を。

9番 荻生 義明 議員

(1) 新型コロナ対策

① ワクチン接種

3月6日(日)で集団接種が終了しますが、3月5日時点での予想接種率は対象者全体の56.4%、人口全体の46.3%と言うことですが、それ以外の未接種の方への今後の対応についてはどのように進めるのか伺います。

② コロナ感染者の支援とケアについて

コロナ感染者が立山町でも累計410名を超えています。感染者の方々は、大変苦労されていると思います。その方々に町としての支援やケアについて、どのようにされているのかを伺います。

(2) 空き家対策

新たに空き家の調査をするとありましたが、現在、町で把握している空き家、その中でも、特定空き家の対象となる空き家はどのくらいあるのか、またその空き家への対応について伺います。

(3) まちなかピアノ

まちなかファームに、昨年末、まちなかピアノを設置されましたが、その後の反応と利用はどのようなのですか。まちなかの活性化に繋がるものと思いますが、今後利用者の方々のミニコンサートにつながればと思いますが、イベントなど計画されてはいかがでしょうか。

10番 広島 秀一 議員

(1) 歩道のない県道（県道立山水橋線）の安全確保について

通称 相塚線（県道立山水橋線）の仁右衛門用水から中央体育センターまでは歩道がない。安全確保のため、歩道の設置が必要ではないか。現状と今後の方策を問う。

(2) 移住定住のPRについて

町には趣味を活かせる、例えば、釣り、登山、スキー、クロスカントリー等ができる場所がある。また、お米、魚、おいしい食べ物がたくさんあります。企業もテレワークが進み、必ずしも都会でなくても仕事ができる環境になってきています。町の立地を生かして町外から移住希望者を呼び込むため、どのようなPRを考えていますか。お尋ねします。

(3) 移動手段の確保について

町営バス・ワゴンの運行で、曜日によって路線を変えることはできないか。そうすれば、細かなルートの設置ができるのではないか。

(4) たてポカードの利用について

現金をチャージできないか。一枚のカードでいろいろな買い物に利用できれば便利で増えるのでは。キャンペーンポイントの加算は20%だが、終了後は1%になるので、ギャップが大きい。キャンペーン終了後、買い控えの反動が来ないか。徐々に1%に戻していけばどうか。

(5) 移動販売について

移動販売の成果は上がっているのか状況を教えてください。

11番 内山 昭 議員

(1) 五百石駅周辺再設計事業について

今、町政の課題と言えば、人口減少対策や中心市街地の空洞化、空き家問題があります。

町長は、5期目就任インタビューで基本方針を問われ、4期目でやり残したことでは、「まちなかの空き家活用」を挙げ、民間と共同で空き家をゲストハウスなどに改修し、必要なときに町の暮

らし体験施設として借り受けることを想定していたが、コロナで御破算になったと言われました。

今度は仕切り直しではありませんが、五百石駅周辺での宿泊施設誘致の可能性を調査するコンサルタント委託料を含めた町活性化事業を「五百石駅周辺再設計事業」と名付け、3,496万円を予算計上されました。

中心市街地の空洞化については、徐々にではありますが、かなり前からその兆候が見え始めており、ここ5～6年位で一気に進んだ感さえあります。

町中心部の空き店舗を活用した起業支援や、店舗改修費の助成なども検討するなど、商工観光課・企画政策課・美しいまちづくり推進室と3課挙げての取組みは大いに期待できます。

市街地活性化へ本腰とありましたが、本腰を入れさせたきっかけと意気込みについて、町長にお尋ねをいたします。

(2) 人口減少対策について

次に、人口減少対策についてです。人口減少の最大要因は都市部の大学を卒業して、そのままここで就職してしまうことにあると町長は断じておられます。

人口減少対策として、現在進められている施策では移住・定住をいかに支援していくかになると思いますが、とりわけ若年世帯新生活支援事業が重要であるということで、若い世帯が町内で家を建てたり、購入した際に地域通貨「たてポカード」の30万ポイントを提供しました。

一方で、町は空き家バンクを設け、空き家を活用した移住定住も進めていますが、2013年度の開始当初は空き家の登録数が少なかったこともあり、マッチングはなかなかできませんでした。

しかし、最近では20件程度の登録もあり、相談を担当する「移住定住コンシェルジュ」を置き、窓口を設置するなど体制を強化しておられます。

2020年度の空き家でのマッチングは7件で、うち3件は県外からの移住者でした。町への移住・定住を検討している人には、中山間地にある「リフレッシュせと」で田舎暮らしを体験してもらっているとのこと。

人口減少対策は今や全国各町村の共通課題にもなっており、わが町もあの手この手を駆使され、試行錯誤をしてこられたことと思いますが、現時点でどのように評価しているか、また今後の取組みについてお聞きします。